

平成28年4月14日、16日に発生した「平成28年熊本地震」では、斜面が崩れたり、道路に裂け目が入ったりして通れなくなったところも多く、とても不便でした。「つくる部」の仲間は、そんなところの工事をどんどん進めています。



開通した俄山トンネル出入口(西原村側)



地震直後の俄山トンネル周辺



菊池阿蘇スカイラインの崩れた斜面を固める工事。命綱をつけ、大変な技術が必要です



山都町の五老ヶ滝川、地震で崩れた川岸を直す工事を行っています

# 県内のれまれまな地域で復興が着実に進んでいます

阿蘇郡西原村と南阿蘇村を結ぶ俄山トンネルへの道は、道路にもトンネルにも大きな被害がありました。そこで、一日も早く通行できるように国が工事を監督し、建設産業の人たちが一丸となって工事を進めました。もともと道(本線)を元に戻すには長い工事時間が必要なので、昔使っていた道を利用

して新しい道路をつくり修復したトンネルにつき、南阿蘇村への道をつくりました。驚くほどの早さで、昨年12月に完成しました。南阿蘇村の旅館の支配人・松田俊彦さんは、「おかげで安全に来やすくなり安心しました。急いで工事をされた皆さんに感謝しています。今後の復興に期待しています」と話していました。



# 新どぼくま

熊本の建設産業の魅力を発信!



みんなで頑張っているモン!

2017年 熊本地震復興応援編

「どぼくま新聞」とは「どぼくま新聞」は、私たちの身近なところにあるけれど、あまり知られていない建設業の役割やさまざまな情報について、紹介していく新聞です。



家やビル、道路や橋、駅や港などさまざまなものをつくる建設業で働く人々と、つくる部が好きな仲間のあつまり、それが「つくる部」です。熊本地震後の熊本を新たに「つくる」ことも、つくる部の大きな仕事。つくる部は、熊本の復興を支えています。

右のQRコードを読み込むと、地震後の復旧・復興のために働く「つくる部」の動画が見られます。



日焼け対策なども話題にのぼっていました

## 復興を支える建設業界の女子会「くまもと建麗会」始動!

建設産業で働く女性はまだ男性より少ない状況ですが、徐々に活躍する人が増えています。そこで「もっと多くの女性が楽しく元気に働けるよう」に「くまもと建麗会」がスタートしました。今年2月に開かれた3回目の会合には28人が参加し、入社1年目の10代から30年以上働いている

熊本の建設産業で働く女性たちが会を結成し、活動しています。



建設産業にはいろいろな職種で働く女性があります。左：株式会社雷坂建設設計部 吉村綾乃さん(入社3年目)。「女性も元気に働ける仕事です!」右：株式会社前田産業 工事部重機課 小崎美香さん(入社12年目)。「重機を操縦して木造の建物を解体するのが主な仕事です。女性ももっと活躍し、自立できる業界にしていきたい!」

参加者の一人は、「同じ仕事をやる女性と話すことができるのが楽しみ。若い女の子たちにも、この仕事のやりがいや楽しさをもっと知ってほしい」と話していました。今、建設産業に女性の力が求められています。



「熊本の復興に向けみんなで力を合わせて!」

